

教育実践臨床研究



子どもの学びを 支える 知恵と技



はじめに

授業とは何でしょうか？ どの学校の、どの教室でも、そしてグラウンドや体育館でも授業が日々行われています。ありふれた風景です。しかし、この授業を徹底的にとらえなおし、突きつめていこうとしているのが、教育実践臨床研究です。この研究紀要を読み始めますと、広い入口からすーっと中に吸い込まれ、奥へ奥へと誘われていくにしたい、行きつく先のない奥深さに畏怖の念を抱くほどです。

昨年の8月2日金曜日、藤沢市教育文化センター大会議室で一つのシンポジウムが行われました。テーマは、「授業づくりの基本となるもの～子どもの学びを支える知恵と技～」です。この研究紀要の序にその記録が掲載されています。そこには、もがき苦しむ中で授業を追究していく次のような授業者の姿があります。

授業者は、「ねがい」を明確にして授業を組み立て、意気揚々と教室に赴きます。授業の中での子どもの姿に注目すると、いろいろなことが見えてきます。ただ、授業者一人ではすべてに気づくことはできません。そこで、参観者の助けを得て「振り返り」をする中で、徐々に気づくことが増えてきます。そこで疑問が生まれます。ただ漫然と授業をするのではなく、本当の意味で「子どもの学びを支える」にはどうしたらよいのだろうか。「子どもたちが考える授業」をしたくても、思うようにいかないことに悩み始めます。そもそも自分は子どもが見えているのだろうか。見ようとしていたのだろうか。たった1時間の授業をつくるために教師はたくさんの時間をかけ、悩みます。一人で悩むだけではなく、その悩みを共有してくれる仲間がいることで、教師はさらに成長することができるのです。日々、授業で一番大切にしなければならないものは何かを再確認し、教師自身も学び続けていくことで子どもたちに意気込みが伝わり、子どもたちも学ぶ喜びを感じるようになるのだと思います。

このように真摯に授業に向き合うためには、授業の「振り返り」だけではなく、自分の実現したい授業の方向を明瞭にするための「授業デザイン」が欠かせません。本紀要では、子どもの学びを支えるための授業デザインについて、理論や方法を具体的に述べています。また、若い研究員が授業を振り返り、再構築して、学ぶことや教えることについての気づきを得ていく様子が詳しく報告されており、この研究が教師の成長に大きく寄与していることがわかります。さらに近年、研究員OBが研究の成果を学校現場に還元し、市内における教育実践臨床研究の浸透、発展が進んでいますので、その一例も紹介しています。

この紀要をお読みになった方が、何か一つでも新しい価値観や考え方に触れ、一歩前進していただけたら、こんなにうれしいことはありません。

2014年（平成26年）3月

藤沢市教育文化センター長
泉 在道



| 目 次

はじめに

序 シンポジウム 授業づくりの基本となるもの 7
— 子どもの学びを支える知恵と技

守屋 淳
富岡 英道
古島そのえ
森 学
鹿毛 雅治

第1部 子どもの学びを支える授業のデザイン
— 教育実践臨床研究の方法

第1章 授業の成立に欠かせないもの 35
— 授業デザインの6つの構成要素

江原 敬

第2章 6つの構成要素による授業デザインの進め方 45

目黒 悟
和田 武彦
谷合 弘州
江原 敬

第3章 6つの構成要素による授業デザインの実際 85
— 小学校3年国語科「ちいちゃんのかげおくり」

岩井 美香

第4章 授業デザインから授業リフレクションへ 93

目黒 悟

第2部 子どもの学びを支え続けるために

— 教育実践臨床研究の営み

第1章 見えることから授業の再構築 101

— 小学校3年算数科

「小数ってなんだ？ みんなでアプローチ」

鷹野 全宏

■コラム

鷹野実践をとおして私が学んだこと（岩井 美香） 127

第2章 授業をするためのヒント 129

井上 裕光

第3章 自分のことばで自分の授業を語るとは 135

— 藤沢市立村岡小学校における校内研修の取り組み

岩井 美香

第3部 子どもの学びを支える授業の研究に向けて

— 教育実践臨床研究の視座

「授業ができる」とはどのようなことなのか 143

鹿毛 雅治

事項索引

おわりに



おわりに

教育実践臨床研究部会では、小学校・中学校の研究員それぞれが、自分の目の前の子どもたちに、こういうことを大事にして授業をやっていききたいという「ねがい」を軸にして、単発の授業研究ではなく、1年間をとおして日々の授業を大事に授業実践研究を続けています。よくありがちな研究授業では、授業者が参観者からさまざまな指摘を受けて落ち込んでしまい、なかなか授業改善に結びつかないこともあります。しかし、この部会では授業者が年間をとおして研究に取り組む中で、特にここは力を入れて行ってみたいという単元については、毎時間担当者が授業を記録し、授業後に振り返り（授業リフレクション）を行い、自分のことばで自分の授業を語ることを大事にしています。そして、そこで見えたことや思ったこと、気づいたことなどを次の授業へと活かしていきます。また、授業研究セミナーもそうした流れの中で、部会のメンバーや参観者と共に、子どもがどんなことを学んでいたのか、きちんと事実を確かめ、それを基に授業者自身が次の授業を考えていくことを大切にしています。人から指摘を受けて授業を改善するというのではなく、自分自身の授業の中から授業改善の手がかりを得ていくところに、この教育実践臨床研究の大きな特徴があります。

本紀要で報告されているように、研究員2年目の鷹野先生は今年度小学校3年算数科で授業実践研究に取り組みました。担当者の立場で見ていると、2学期に入ってから鷹野先生は部会場であまり発言しなくなり、授業の様子も何か楽しそうに見えませんでした。何かあったのだろうか…と見守っていたところ、11月に入ってから授業中の先生の居方が変わってきました。そこで、「最近授業が楽しそうね」と言うと、「はい。今までやってきたことがつながってきました」と返ってきました。うれしいことばです。きっと、授業の中で子どもたちの手応えが得られるようになってきたのでしょう。それまでの悶々とした様子が嘘のようです。子どもたちの感触を手がかりに、授業の中ではたらきかけを繰り返すことで、子どもたちが日々成長しているのがこちらにも見てとれます。間違ってもいい考えだねと認めてくれる先生や仲間がいるというクラスの雰囲気もできてきて、一人また一人と発表する子も増えてきました。

たとえば、小数の8時間目の授業でのこと。これでいいのかなあと解き方に迷っていた子の声をすかさず先生は拾い上げ、クラスみんなに「どうしていいか困っているんだけど…」と返します。その投げかけに、子どもたちは大発奮。その後の振り返りで「授業とは子どもたちを変えていくものだ実感した」と、鷹野先生は大きな気づきを得ることができました。その時その場で子どもの反応を受け止め、臨機応変にはたらきかけることができるのも、自分の目の前の子どもたちに、こういうことを大事にして授業をやっていききたいという「ねがい」が明確になっていればこそでしょう。

教育実践臨床研究部会が、授業者のねがいを大切にしながら、部会メンバーも講師も担当者も、授業を一般論で語るのではなく、授業者の授業に寄り添っていくのは、こうした子どもたちと教師の成長を支えることに主眼があるからなのです。（磯上）



教育実践臨床研究部会

▶ 研究員

- 小森健太郎（藤沢市立六会小学校教諭）
鷹野 全宏（藤沢市立滝の沢小学校教諭）（第2部第1章）
佐藤 遼（藤沢市立大清水小学校教諭）
内海 里美（藤沢市立本町小学校教諭）
山下太一郎（藤沢市立善行中学校教諭）
小林隆太郎（藤沢市立滝の沢中学校教諭）

▶ 研究員OB

- 富岡 英道（元藤沢市教育文化センター長）〈序〉
田中 朗（FTC学長、元藤沢市立御所見小学校校長）
江原 敬（元藤沢市立羽鳥小学校校長）〈第1部第1章、第1部第2章共著〉
中村 浩（藤沢市教育委員会指導主事）
小暮 敏代（藤沢市立湘南台中学校教諭）
和田 武彦（藤沢市立浜見小学校教諭）〈第1部第2章共著〉
谷合 弘州（藤沢市立石川小学校総括教諭）〈第1部第2章共著〉
古島そのえ（神奈川県教育委員会指導主事）〈序〉
善名 淳子（藤沢市立大庭小学校教諭）
内野 大輔（藤沢市立村岡中学校教諭）
西田 将之（藤沢市立大鋸小学校教諭）
森 学（藤沢市立片瀬中学校教諭）〈序〉
岩井 美香（藤沢市立村岡小学校教諭）〈第1部第3章、第2部第1章コラム；第3章〉
千葉 俊介（藤沢市立大清水小学校教諭）

▶ 講師

- 井上 裕光（千葉県立保健医療大学准教授）〈第2部第2章〉
鹿毛 雅治（慶應義塾大学教授）〈序、第3部〉
高橋 和子（横浜国立大学教授）

▶ 研究協力

- 守屋 淳（北海道大学教授）〈序〉

▶ 担当

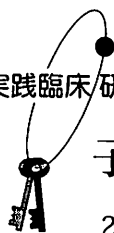
- 目黒 悟〈第1部第2章共著；第4章、装丁〉
磯上 恵〈事項索引〉

※ 〈 〉 内は執筆分担等を表します。

Clinical Studies on Educational Practices



教育実践臨床/研究



子どもの学びを支える知恵と技

2014年3月 編集発行

藤沢市教育文化センター
神奈川県藤沢市大鋸1407-1 (〒251-0002)
TEL. 0466-50-8300
FAX. 0466-82-4764
E-mail: kyobun-c@city.fujisawa.kanagawa.jp
URL: <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyobun-c/>

印刷所 / (有)コサカ印刷